

23



24



25



26



27



30



28



32



33



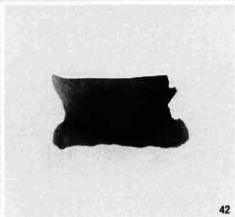
35



36



37



42



43



20



51



55



57



34



60



61



62



63



64



65



66



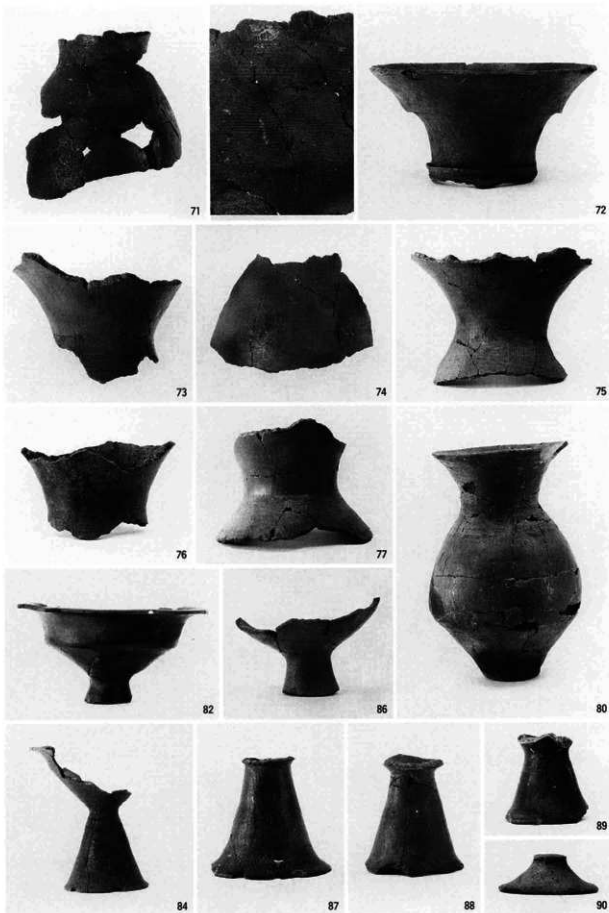
67

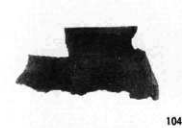


68



69







110



111



113



115



116



119



118



121



123



124



125



126



127



131



133



134



136



137



138



141



142



143



145



146



147



149



150



154



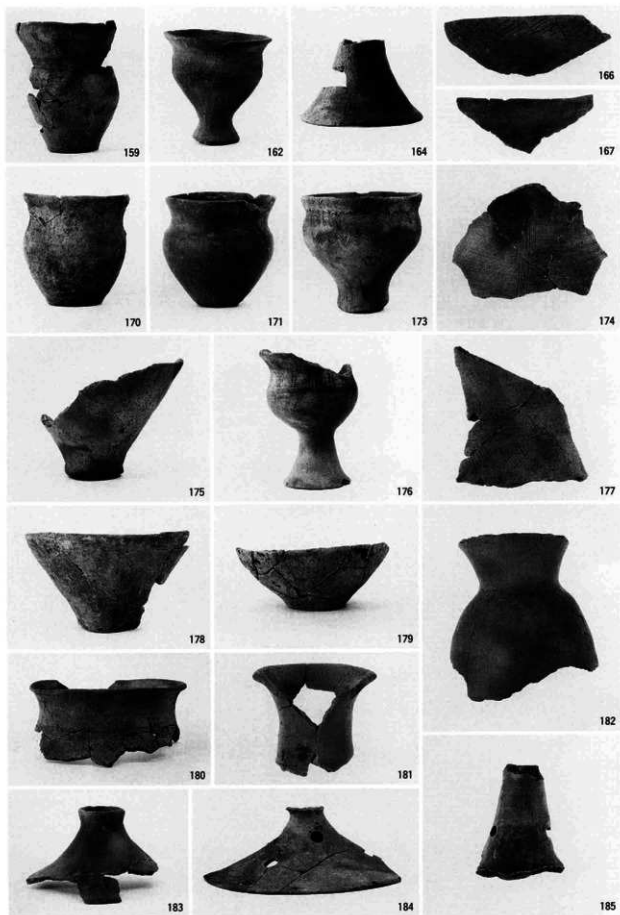
160



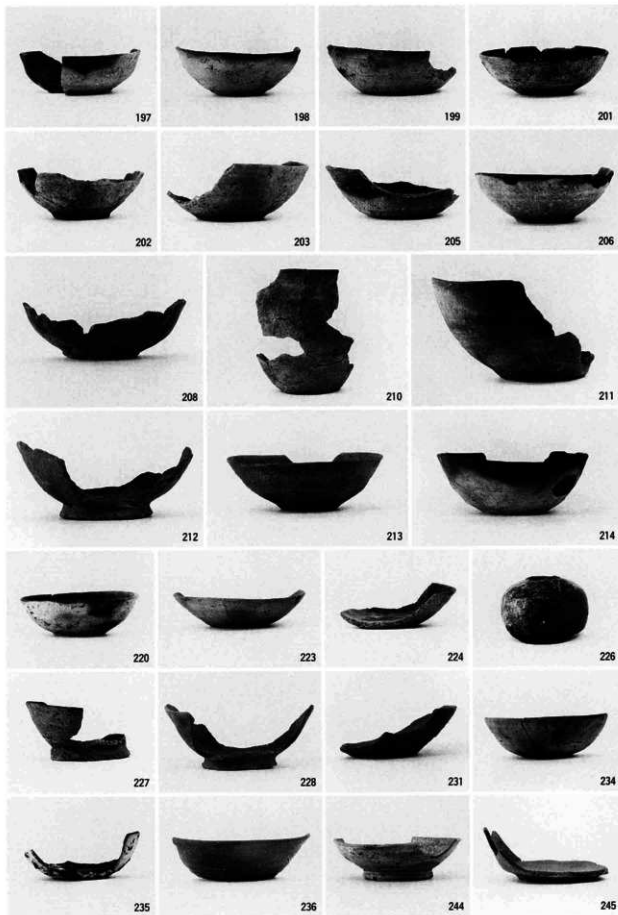
161



158







出土土器観察表 1

No	器種	口径	底径	器高	通孔径(筋土)	成形・調整・文様(外面)	成形・調整・文様(内面)
<b>2号住居址</b>							
1	壺	31.1		3.4		口縁部:赤彩 口縁部/ハケ→縦溝磨き 胴部:横直線文へ	底磨き・赤彩
2	壺	7.6	3.4	1.3		口縁部:ハケ→底磨き・赤彩 胴部:横直線文→横直線 胴部:縦溝磨き・赤彩	口縁部:縦溝磨き・赤彩 ナデ
3	壺	17.9		1.4		胴部:右回り等間隔止の縦線文2→口縁部:波状文1 胴部:波状文(上→下)	横溝磨き
4	壺	15.4		1.3		胴部:右回り等間隔止の縦線文→口縁部:波状文(下→上) 胴部:波状文(上→下)	ハケ→横溝磨き
5	壺	11.1		3.4		胴部:右回り等間隔止の縦線文→口縁部:波状文・胴部:波状文	ハケ→横溝磨き
7	壺	12.8		完		胴部:右回り2進止の縦線文→口縁部:波状文(下→上) 胴部:波状文(上→下)	ハケ→横溝磨き
8	壺	14.1		1.5		口縁部:横溝磨き 胴部:横溝磨き	横溝磨き
9	壺	12.6		4.5	○	口縁部:縦溝磨き・横溝磨き 口縁部:横溝磨き ナデ 胴部:ハケ	口縁部:横溝磨き 胴部:きらら状工具による横溝磨き・赤彩
10	高杯	26.4		1.5		口縁部:縦溝磨き 胴部:縦溝磨き・赤彩	縦溝磨き・赤彩
<b>4号住居址</b>							
11	壺	12.4		7.5	完	胴部:横溝磨き 胴部:ハケ→縦溝磨き	横溝磨き
12	高杯	8.2		2.3		横溝磨き・赤彩	横溝磨き・赤彩 胴部:ナデ?
13	壺	7.3				胴部:横溝磨き状 胴部下半:ハケ→縦溝磨き	ハケ→横溝磨き
<b>6号住居址</b>							
14	壺	12.9		1.3		胴部:右回り3進止の縦線文→口縁部:波状文(上→下) 胴部:波状文(上→下) 区別単位毎に横直線文異なる	横溝磨き
15	台付壺	16.1		1.4		胴部:右回り2進止の縦線文→口縁部:波状文(上→下) 胴部:波状文(上→下)	横溝磨き
<b>7号住居址</b>							
16	壺	14.0	4.9	12.2	4.5	口縁部:縦溝磨き・横溝磨き ナデ 胴部:横溝磨き ナデ 胴部:ハケもしくはきらら状工具による横溝磨き 底磨き・ナデ	口縁部:ハケ→横溝磨き 胴部:きらら状工具による横溝磨き
17	壺	17.0	2.3		2.3	胴部:右回り等間隔止の縦線文?→口縁部:波状文(上→下) 胴部:波状文(上→下) 右回りの区別単位毎	口縁部:横溝磨き 胴部:縦溝磨き
18	壺	17.0	5.9	17.6	完	口縁部:縦溝磨き・横溝磨き ナデ 口縁部:横溝磨き 胴部:ハケ→縦溝磨き 底磨き:縦溝磨き・ナデ	口縁部:横溝磨き 胴部:縦溝磨き
19	壺	7.4		2.3		胴部:横溝磨き2→直線文・横直線・直線文は他内器種文の可能性あり 口縁部:胴部:コンパス文状の横直線文 胴部下半:ハケ→縦溝磨き 底磨き:軽い底磨き	口縁部:横溝磨き 胴部:ハケ→縦溝磨き
20	壺	15.4		1.3		口縁部:横溝磨き ナデ 胴部:ハケ	口縁部:横溝磨き ナデ 胴部:きらら状工具による横溝磨き or ナデ
21	壺	5.6		1.3		胴部:ハケ 底磨き:ハケ (20と同一体の可能性がきわめて高い)	ナデ?
<b>9号住居址</b>							
22	壺	10.7		6.4	1.3	胴部:横溝磨き 胴部:ハケ→縦溝磨き	ハケ→横溝磨き
23	壺	13.7		1.4		口縁部:横溝磨き・縦溝磨き・赤彩 胴部:縦溝磨き・赤彩	口縁部:横溝磨き・赤彩 胴部:ハケ→ナデ・部分的に横溝磨き
<b>10号住居址</b>							
24	台付壺	12.9		3.4		胴部:右回り2進止の縦線文 口縁部:波状文 胴部:波状文(上→下) 胴部下半:ハケ→縦溝磨き	横溝磨き
<b>12号住居址</b>							
25	壺	11.0	5.6	15.0	完	口縁部:横溝磨き 胴部:横溝磨き 胴部:横溝磨き・赤彩 底磨き:ナデ	口縁部:横溝磨き・赤彩 胴部:横溝磨き
26	台付壺	12.2	8.2	15.4	1.3	口縁部:右回り2進止の縦線文→口縁部:波状文(上→下) 胴部:波状文(上→下) 胴部:縦溝磨き	口縁部:横溝磨き・赤彩 ナデ 胴部:横溝磨き
<b>15号住居址</b>							
27	壺	20.0		3.4		口縁部:縦溝磨き 胴部:縦溝磨き	口縁部:横溝磨き 胴部:ハケ
<b>20号住居址</b>							
28	壺	9.7		3.4		口縁部:横溝磨き 口縁部:ハケ→ナデ 胴部:横溝磨き文→横溝磨き状 胴部:ナデ	ナデ
<b>21号住居址</b>							
29	壺	18.2		1.6		口縁部:波状文(横直線文不定)→胴部:右回り3進止の縦線文	横溝磨き
30	壺	13.6		3.4		口縁部:横溝磨き 胴部:横溝磨き	口縁部:横溝磨き 胴部:ナデ
<b>19号住居址</b>							
31	壺	5.4		1.2		横直線文・横直線文 胴部:ハケ→縦溝磨き・赤彩	口縁部:横溝磨き・赤彩 胴部:横溝磨き
32	壺	23.9	5.4	11.1	1.3	胴部:横溝磨き 底磨き:横直線文	ハケ→縦溝磨き
33	壺	14.3		1.3		口縁部:波状文(上→下) 胴部:波状文はない	ハケ→縦溝磨き
34	高杯	11.1		3.4		縦溝磨き・赤彩	横溝磨き・赤彩 胴部:ナデ
<b>22号住居址</b>							
35	壺	28.9		4.5		口縁部:横溝磨き ナデ→横溝磨き 口縁部:横溝磨き 胴部:横溝磨き	口縁部:横溝磨き 胴部:横溝磨き
36	壺	8.7		3.4		胴部:ハケ→縦溝磨き 底磨き:横溝磨き	横溝磨き
37	壺	15.9	6.6	20.3	3.4	口縁部:横溝磨き・横溝磨き ナデ 口縁部:横溝磨き 胴部:横溝磨き	横溝磨き
38	壺	17.9		1.3		口縁部:横溝磨き 胴部:右回り等間隔止の縦線文2→波状文(横直線不明)	口縁部:横溝磨き 胴部:横溝磨き
39	壺			1.2		ハケもしくは横溝磨き→縦溝磨き	ハケ
40	高杯			1.2		ハケ→縦溝磨き・赤彩	ハケ→ナデ
<b>23号住居址</b>							
41	壺	15.7		1.4		口縁部:横溝磨き 胴部:横溝磨き	横溝磨き
42	壺	11.3		1.3		口縁部:ハケ→横溝磨き 胴部:ハケ→ナデ	口縁部:横溝磨き 胴部:横溝磨き
43	壺	14.3		1.4		口縁部:横溝磨き 胴部:波状文(上→下)→胴部:右回り2進止の縦線文	口縁部:横溝磨き 胴部:横溝磨き
44	壺	16.3		1.3		口縁部:横溝磨き ナデ 口縁部:横溝磨き	ハケ
45	壺	15.2		1.10		丁家全横溝磨き	丁家全横溝磨き
46	高杯	19.3		1.4		縦溝磨き・赤彩	縦溝磨き・赤彩
47	高杯	14.7		2.3		縦溝磨き・赤彩	縦溝磨き・赤彩
48	高杯	21.0		1.3		縦溝磨き・赤彩	縦溝磨き・赤彩
49	高杯	20.0		1.2		縦溝磨き・赤彩	縦溝磨き・赤彩
50	高杯		9.9	1.3		縦溝磨き・赤彩 2列6孔の円形透孔	ナデ
51	高杯		14.2	完		縦溝磨き・赤彩 三角形透孔4	横溝磨き
52	高杯		13.4	完		縦溝磨き・赤彩	横溝磨き
<b>24号住居址</b>							
53	底付壺	11.3		1.4		縦溝磨き・赤彩	口縁部:横溝磨き・赤彩 胴部:横溝磨き
54	底付壺	15.0		1.4		縦溝磨き・赤彩 口縁部に2孔→1列の横溝磨きあり	口縁部:横溝磨き・赤彩 胴部:横溝磨き
55	台付壺	10.9		1.5		口縁部:横溝磨き 胴部:右回り2進止の縦線文→口縁部:波状文・胴部:波状文(上→下)	横溝磨き
56	台付壺	13.7		1.3		胴部:右回り3進止の縦線文→口縁部:波状文(下→上) 胴部:波状文(上→下) 右回りの区別単位毎	横溝磨き

出土土器観察表 2

No.	器種	口径	底径	器高	底径/器高	胎土	成形・調整・文様 (外面)	成形・調整・文様 (内面)
57	白付甕	14.8			1.3		肩部:右回り2道止の轡状文→口縁部:波状文・胴部:波状文(上→下)右回りの区画単位施文	横線施り
58	白付甕	13.6			1.2		肩部:右回り2道止の轡状文→口縁部:波状文(施文単位毎に施文順序異なる点)・胴部:波状文(上→下)	ハケ→横線施り
59	甕	21.4			1.6		口縁部:面取り→波状文 肩部:右回り3道止の轡状文・口縁部:波状文(下→上)・胴部:波状文(下→上) 波状文は、右回りの区画単位施文	口縁部:横線施り 胴部:横線施り
60	甕	16.5			1.4		肩部:右回り2道止の轡状文→口縁部:波状文(施文順序不定)・胴部:波状文(下→上)	口縁部:横線施り 胴部:横線施り
61	甕	15.6	6.1	16.3	2.3		肩部:右回り2道止の轡状文→口縁部:波状文(上→下)・胴部:波状文(上→下) 胴部下半:横線施り	口縁部:横線施り 胴部:横線施り
62	甕	16.3	6.0	18.7	2.3		肩部:右回り2道止の轡状文→口縁部:波状文(下→上)・胴部:波状文(上→下) 胴部下半:横線施り	口縁部:横線施り 胴部:ハケ→横線施り
63	甕	13.5	5.1	14.3	2.6		口縁部:面取り→波状文 口縁部:波状文(下→上)・胴部:波状文(下→上) 右回りの区画単位施文→胴部:右回り4道止の轡状文 胴部下半:横線施り 底面:幾何形→波状文	口縁部:横線施り 胴部:横線施り
64	甕	16.5	6.6	18.7	3.4		肩部:右回り3道止の轡状文→口縁部:波状文(上→下)・胴部:波状文(上→下) 胴部下半:横線施り	横線施り
65	甕	17.4			1.4		肩部:右回り3道止の轡状文→口縁部:波状文(下→上)・胴部:波状文(区画単位毎に施文順序異なる点)	横線施り
66	甕	14.4	7.2	21.2	2.6		口縁部:波状文(施文順序不定)・胴部:波状文(施文順序不定)右回りの区画単位施文→胴部:右回り2道止の轡状文 胴部下半:横線施り	ハケ→波状文
67	甕	17.0			1.4		肩部:右回り3道止の轡状文→口縁部:波状文(下→上)・胴部:波状文(上→下)	ハケ→横線施り
68	鉢	10.7	3.5	5.0	3.4		体部:粗い波状文 底面:ナデ	横→波状文
69	鉢	13.9	4.6	5.8	3.0		波状文・赤彩	体部:赤彩 底面:横線施り
70	鉢	12.9	4.2	7.2	3.4		波状文・赤彩	体部:赤彩
71	志				1.3		口縁部:波状文・赤彩 肩部:直線文2→コマ文状の波状文(直線文は畿内型轡状文の可能性大) 胴部:波状文・赤彩	口縁部:波状文・赤彩 胴部:粗い横線施り
72	甕	27.6			2.6		混入の可能性大 口縁部:波状文・赤彩 胴部:断面三角形の片持ち突起	横線施り
73	甕				2.3		口縁部:ハケ→横線施り 胴部:横線丁字文(二本一対)	ハケ→横線施り
74	甕				1.3		肩部:横線丁字文 胴部:ハケ→波状文	横線施り
75	甕				2.6		口縁部:波状文・赤彩 胴部:横線丁字文	口縁部:横線施り・赤彩 胴部:横線施り
76	甕				3.4		口縁部:波状文・赤彩 胴部:横線丁字文	波状文・赤彩
77	甕				2.6		口縁部:波状文・赤彩 胴部:横線丁字文	口縁部:波状文・赤彩 胴部:ハケ→ナデ
78	甕	30.9	12.4	70.5	3.4		口縁部:ハケ→波状文 胴部:横線丁字文(二本一対) 胴部:ハケ→波状文	口縁部:ハケ→波状文 胴部:ハケ→ナデ
79	甕	32.0	10.6	64.5	2.6		口縁部:波状文・赤彩 胴部:横線丁字文(波状文) 胴部上半:波状文・赤彩 胴部下半:ハケ→波状文	口縁部:波状文・赤彩 胴部:ハケ→ナデ
80	甕	18.0	7.3	28.8	4.5		口縁部:横線施り・赤彩 胴部:横線丁字文(二本一対) 胴部上半:波状文・赤彩 胴部下半:横線施り	口縁部:波状文・赤彩 胴部:ハケ→ナデ
81	甕	22.7			2.3		波状文・赤彩	波状文・赤彩
82	高坏	26.8			3.4		波状文・赤彩	体部:波状文・赤彩 胴部:ナデ
83	高坏	27.6			1.3		波状文・赤彩	波状文・赤彩
84	高坏	24.0	14.4	23.9	1.2		波状文・赤彩	体部:波状文・赤彩 胴部:ハケ→ナデ
85	高坏	23.2			1.2		波状文・赤彩	波状文・赤彩
86	高坏				1.2		波状文・赤彩	波状文・赤彩
87	高坏	15.7			3.4		波状文	ハケ→ナデ
88	高坏				2.6		波状文・赤彩	体部:波状文・赤彩 胴部:ナデ
89	高坏	8.9			3.4		波状文・赤彩	体部:波状文・赤彩 胴部:ナデ
90	甕	6.7			2.4		波状文	ナデ→波状文
29号住居址								
91	甕				1.4		肩部:幾何形丁字文→内形浮文 胴部:波状文・赤彩	波状文
92	甕				3.4		波状文	ハケ→ナデ
93	甕				3.4		口縁部:ハケ→ナデ 胴部:横線波状文 胴部:波状文・赤彩	口縁部:波状文・赤彩 胴部:ナデ
27号住居址								
94	甕	20.2	6.3	26.9	2.3		肩部:右回り2道止の轡状文→畿内型轡状文→口縁部:波状文(下→上)・胴部:波状文(上→下) 波状文とはともに右回りの区画単位施文	口縁部:波状文 胴部:波状文
30号住居址								
95	甕	23.6			3.4		口縁部:ハケ→粗い波状文 胴部:横線丁字文(二本一対) 胴部:波状文	口縁部:ハケ→横線施り 胴部:ハケ→ナデ
96	甕	18.5			2.3		波状文	波状文
97	甕				1.3		口縁部:波状文・赤彩 胴部:幾何形突起	口縁部:波状文・赤彩 胴部:ハケ→ナデ
98	甕	22.1			2.4		口縁部:面取り 口縁部:横線丁字文(二本一対) 胴部:波状文	胴部:不明
99	甕	28.6			3.4		肩部:横線波状文→口縁部:波状文(下→上)・胴部:波状文(上→下) 胴部下半:ハケ→波状文	口縁部:横線施り 胴部:ハケ→波状文
100	甕	16.0			1.3		肩部:右回り3道止の轡状文→口縁部:波状文(下→上)	横線施り
101	甕	16.9			3.4		口縁部:波状文(下→上)・胴部:右回り3道止の轡状文	ハケ→波状文
102	甕	13.6			1.2		口縁部:面取り 口縁部:波状文(上→下)→胴部:右回り3道止の轡状文	丁寧な横線施り
103	甕	14.7			2.3		胴部:横線波状文 胴部:ハケ→波状文	ハケ→ナデ
104	甕	13.7			1.3		口縁部:面取り 口縁部:波状文(上→下)	波状文
105	甕	15.2			1.4		口縁部:波状文(下→上)・胴部:波状文(上→下)→胴部:右回り3道止の轡状文	横線施り
106	甕	15.4			1.3		肩部:右回り2道止の轡状文→口縁部:波状文	横線施り
107	鉢	11.2	5.3	5.3	1.2		波状文・赤彩	波状文・赤彩
108	鉢	14.2	4.3	5.9	1.2		波状文・赤彩	波状文・赤彩
109	甕	17.5			3.4		波状文	口縁部:波状文 胴部:ハケ→波状文
110	甕	7.3			3.4		波状文・赤彩	ハケ→ナデ
111	高坏	8.0			2.3		波状文・赤彩 胴部に14円形透孔5	体部:波状文・赤彩 胴部:ナデ
112	甕	7.8			2.3		ハケ→波状文・赤彩	ハケ→ナデ
113	甕	8.1			2.3		肩部:右回り3道止の轡状文 胴部:波状文(上→下)	波状文
114	高坏	27.8			1.3		波状文・赤彩	波状文・赤彩
115	高坏	19.4			2.3		波状文・赤彩 三角形透孔4	体部:波状文・赤彩 胴部:波状文・ナデ
32号住居址								
116	甕	18.5			2.6		口縁部:横線施り 胴部:横線波状文→断面文 胴部:横線施り	口縁部:横線施り・赤彩 胴部:ハケ→ナデ
117	甕	20.2			2.3		口縁部:波状文 胴部:横線波状文	横線施り
118	甕				2.3		肩部:横線丁字文 胴部:横線施り	波状文
119	甕	18.6	6.1	23.1	1.3		口縁部:横線ナデ 胴部:右回り等間隔止の轡状文 胴部:断面文	口縁部:横線施り 胴部:横線施り
120	白付鉢	11.6			3.4		口縁部:波状文・赤彩 胴部:波状文・赤彩 体部:波状文・赤彩	波状文・赤彩

## 出土土器観察表 3

No.	器種	口径	底径	器高	通存数	出土	成形・調整・文様 (外面)	成形・調整・文様 (内面)
121	甕	17.1			1,4		口縁部:横ナデ 胴部:右回り2進止の縷状文→口縁部:波状文1・胴部:波状文→縷状文	横瓦磨き
122	鉢	11.8			1,4		口縁部:横ナデ 胴部:右回り2進止の縷状文→体部:瓦磨き	瓦磨き
123	鉢	14.4	5.1	8.7	完		口縁部:横ナデ 胴部:右回り2進止の縷状文 体部:瓦磨き	横瓦磨き
124	甕	24.6			3,4		胴部:右回り2進止の縷状文2 (上→下)→口縁部:波状文 (下→上)・胴部:波状文 (上→下)	口縁部:横瓦磨き 胴部:ハケ→横瓦磨き
125	甕	23.1			1,3		胴部:右回り2進止の縷状文2 (上→下)→口縁部:波状文 (下→上)・胴部:波状文 (上→下)→縷状縷状文	ハケ→横瓦磨き
126	甕	8.5			完		ハケ→ナデ	ハケ→ナデ
127	甕	9.0			1,2		ハケ→ナデ	ハケ→ナデ
128	鉢	10.1	3.3	4.3	1,2		瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩
129	鉢	3.7		2.3			瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩
130	甕	9.0		1,3			ハケ→瓦磨き	ハケ→瓦磨き
131	甕	6.4		2,3			横瓦磨き	ナデ
132	甕	6.5		1,3			横瓦磨き	横瓦磨き
133	高坏			2,3			瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩 胴部:ナデ
134	高坏	13.1			完		瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩 胴部:ナデ
135	高坏	12.3		1,3			瓦磨き・赤彩	ナデ
136	高坏	8.3			完		ハケ→瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩 胴部:ナデ
137	高坏	8.5			完		瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩 胴部:ナデ
53号住居址								
138	甕	15.0			1,3		口縁部:横ナデ 胴部:右回り等間隔止め縷状文→胴部:波状文	瓦磨き
34号住居址								
139	高坏	17.6			1,4		瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩
41号住居址								
140	鉢	10.8	5.4	4.7	完		瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩
141	甕	14.0			1,4	○	口縁部:縷状文・面取 口縁部:横ナデ 胴部:ハケ	口縁部:ハケ 胴部:瓦磨き
142	高坏		14.8		3,4		瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩 胴部:ハケ→ナデ
143	甕	25.3			1,2		口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:縷状縷状文	口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:ナデ
144	甕	16.3			1,5		口縁部:縷状縷状文 胴部:瓦磨き	口縁部:縷状縷状文 胴部:瓦ナデ
145	甕	13.0			1,4	○	口縁部:2個一對の円形浮文・4本一組の縦瓦縷状縷・瓦磨き・赤彩 口縁部:横ナデ	口管による流紋刺突 横ナデ
146	広口甕	12.8	5.7	11.6	3,4		瓦磨き・赤彩	口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:厚紙不明
147	広口甕	12.6	4.8	11.6	完		瓦磨き・赤彩	口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:瓦磨き
148	甕	16.2			1,5		口縁部:縷状文 (下→上)→胴部:右回り等間隔止の縷状文	横瓦磨き
149	甕	26.4			2,3		口縁部:縷状文 (下→上)→胴部:右回り3進止の縷状文	横瓦磨き
150	甕	13.6			完		口縁部:縷状文 (下→上)→胴部:右回り3進止の縷状文	横瓦磨き
151	無須壺	8.2	3.8	8.1	1,4		瓦磨き・赤彩	ハケ→瓦磨き
152	高坏	23.4			1,3		瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩
153	高坏			15.6	完		瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩 胴部:ナデ
43号住居址								
154	甕	18.7			1,4		胴部:縷状文 (上→下)→胴部:右回り2進止の縷状文	横瓦磨き
155	甕	11.9			1,2		縷状文 口縁部:波状文	横瓦磨き
156	高坏	8.4			3,4		瓦磨き・赤彩	縷状縷状不明
45号住居址								
157	甕				1,3		胴部:縷状縷状文→縷状文	縷状縷状不明
44号住居址								
158	甕	22.5			2,3		口縁部:ハケ→ナデ 胴部:縷状縷状文→縷状文 胴部:瓦磨き	口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:ハケ→ナデ
159	甕	13.8	6.1	16.2	1,2		口縁部:横ナデ 胴部:縷状縷状文2・胴部:縷状縷状文	ハケ→ナデ
160	広口甕	11.3			1,4		口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:右回り等間隔止の縷状文 胴部:瓦磨き・赤彩	口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:ナデ
161	甕	5.5			3,4		胴部:波状文→縷状縷状文	ハケ→瓦磨き
162	台付甕	9.3			完		口縁部:横ナデ 胴部:右回り等間隔止の縷状文 胴部:波状文→縷状縷状文	ハケ→瓦磨き
163	高坏	14.4			1,3		瓦磨き・赤彩	瓦磨き・赤彩
164	高坏		11.1		1,2		瓦磨き・赤彩	ハケ→横ナデ
165	高坏		13.4		1,3		瓦磨き・赤彩	瓦磨き
42号住居址								
166	甕	21.0			1,4		口縁部:縷状文・縷状文 口縁部:縷状縷状文	瓦磨き・赤彩
167	甕	16.0			1,5		胴部:縷状文→口縁部:波状文 (上→下)	横瓦磨き
168	高坏				1,4	○	縷状縷状文1,4→縷状縷状文	瓦磨き・赤彩 胴部:ナデ
169	高坏		12.1		1,3		瓦磨き・赤彩 三角形透孔	ナデ
46号住居址								
170	甕	13.6	4.5	12.0	4,5		縷状縷状不明	横瓦磨き
171	広口甕	12.0	4.5	12.0	完		瓦磨き・赤彩	口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:横瓦磨き
50号住居址								
172	甕	12.0			1,4		口縁部:横ナデ 胴部:ナデ	口縁部:横ナデ 胴部:ハケ→ナデ
173	台付甕	10.0			完		口縁部→胴部:波状文 (上→下) 胴部下平→胴部:ハケ→瓦磨き	横瓦磨き
51号住居址								
174	甕				1,4		口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:縷状縷状文	口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:ハケ→ナデ
175	穿孔甕	17.8	6.0	11.8	1,3		胴部:ハケ→ナデ 胴部:縷状縷状文1	ハケ→ナデ
176	台付甕	12.1	8.0	16.8	3,4		胴部:右回り2進止の縷状文→口縁部:波状文 (下→上)・胴部:波状文 (上→下) 胴部:瓦磨き	口縁部:瓦磨き 胴部:瓦磨き
53号住居址								
177	甕				1,4		口縁部:ハケ→瓦磨き 胴部:縷状縷状文→縷状縷状文 胴部:瓦磨き	口縁部:瓦磨き・赤彩 胴部:ハケ→ナデ
178	鉢	16.8	6.0	10.0	1,3		横ナデ→赤彩	横ナデ→赤彩
1号住居址								
179	鉢	13.7	5.7	6.4	完		単純縷状不明	単純縷状不明
3号住居址								
180	甕	17.6			4,5		口縁部:横ナデ 胴部:右回り2進止の縷状文→胴部:縷状文	ハケ→横瓦磨き
14号土壘								
181	甕	13.2			2,3		口縁部:LR縷状文 口縁部:ハケ→瓦磨き	口縁部:LR縷状文→瓦磨き
16号土壘								
182	甕				3,4		瓦磨き	口縁部:瓦磨き 胴部:ハケ→ナデ

出土土器観察表 4

No.	器種	口径	底径	器高	器口径	胎土	成形・調整・文様 (外面)	成形・調整・文様 (内面)
183	甕	17.1		6.7	1.3		旋盤き	旋盤き
184	高坏	19.8		1.4			旋盤き 円形穿孔3孔二段	ハケ→ナデ
<b>B区検出品</b>								
185	高坏				1.3	○	直線文3 円形穿孔 旋盤き・糸削	ナデ
186	甕	22.4		1.10			粘土帯足り付け痕白線 縦方向の荒筋沈線	旋盤き・糸削
187	甕	12.3		1.6		○	横ナデ	ハケ→横ナデ
188	甕	16.6		1.4			11指部:強い横ナデ 口縁部:ハケ	ハケ→横旋盤き
189	甕	16.6			1.10		横ナデ	ナデ
190	甕				1.10		旋盤き・糸削	旋盤き・糸削
191	甕	14.2		1.10			口縁部:強い横ナデ 胴部:ハケ	11指部:ハケ→ナデ 胴部:旋盤り
192	甕	11.4		1.10			横ナデ	横ナデ
193	高坏	16.2		1.10		○	旋盤き 円形穿孔	横ナデ
194	高坏			2.3		○	彫刻直線文 尊托浮線不明	彫刻浮線不明
195	高坏			2.3			旋盤き	旋盤き
196	高坏			2.3			旋盤き	旋盤き
<b>1号住居址</b>								
197	杯	11.0	6.7	4.2	1.3		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
198	杯	11.7	6.2	4.1	3.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
199	杯	12.4	5.4	4.8	3.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
200	杯	12.4		3.4			横線ナデ	横線ナデ
201	杯	12.6	5.3	4.0			横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
202	杯	12.6	5.5	4.7	3.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
203	杯	12.9	5.9	4.7	3.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
204	杯	13.0	6.8	4.4	1.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
205	杯	13.0	5.9	4.4	2.3		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
206	杯	13.4	5.7	5.0	3.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
207	杯	16.3	6.8	5.6	1.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
208	杯		5.8		2.3		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
209	灰輪軸		7.0		2.3		横線ナデ	横線ナデ
210	杯	10.4	6.5	14.4	1.3		横線ナデ→脚取り 底部:回転糸切り→停止面	横線ナデ
211	杯	55.7	9.7	13.1	1.4		横線ナデ→脚止面 底部:ナデ→脚止面	旋盤き→黒色処理
<b>8号住居址</b>								
212	甕	15.4	7.4	6.2	1.2		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
213	杯	11.0	4.2	3.9	3.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	横線ナデ
<b>16号住居址</b>								
214	杯	12.4	5.6	5.0	3.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
215	杯	12.2			1.3		横線ナデ	旋盤き→黒色処理
216	甕	13.8		1.5			横線ナデ	旋盤き→黒色処理
217	杯	6.0		3.4			横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
218	杯	7.0		1.3			横線ナデ→回転糸	旋盤き→黒色処理
<b>17号住居址</b>								
219	杯	12.0	6.0	4.1	1.3		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
220	杯	12.7	5.8	4.4	1.3		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
221	杯	12.2	5.8	4.2			横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
222	杯	12.8	6.2	4.3	1.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	横線ナデ
<b>18号住居址</b>								
223	原志杯	11.9	6.3	3.1	3.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	横線ナデ
224	杯	12.2	5.4	3.3	1.3		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
225	甕	12.1	5.6	4.9	1.3		横線ナデ→回転糸 底部:回転糸→ナデ	旋盤き→黒色処理
226	原志杯				3.4		横線ナデ	横線ナデ
<b>19号住居址</b>								
227	甕	10.9	6.4	4.6	1.2		横線ナデ	旋盤き→黒色処理
228	甕	14.6	7.2	6.3	3.4		横線ナデ	旋盤き→黒色処理
229	甕	10.4		1.5			ハケ ナデ	ナデ
230	白付甕	8.3		1.2			旋盤き	旋盤き
<b>50号住居址</b>								
231	原志杯	12.4	5.8	4.0	1.2		横線ナデ 底部:回転糸切り	横線ナデ
232	杯	12.8	5.8	3.6	1.4		横線ナデ→回転糸 底部:回転糸→ナデ	旋盤き→黒色処理
233	杯	13.2	5.2	4.4	3.9		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
234	杯	15.4	6.6	5.1	1.3		横線ナデ→回転糸 底部:回転糸→ナデ	旋盤き→黒色処理
<b>1号溝址</b>								
235	杯	12.6	6.0	4.5	1.2		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
<b>2号溝址</b>								
236	原志杯	12.0	6.3	3.8	1.3		横線ナデ 底部:回転糸切り	横線ナデ
<b>2号土溝</b>								
237	原志杯		5.8		2.3		横線ナデ 底部:回転糸切り	横線ナデ
<b>11号土溝</b>								
238	杯	11.8	5.3	4.3	1.2		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
239	杯	12.0	5.0	4.6	1.2		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
240	杯	12.8	5.8	4.3	1.3		横線ナデ 底部:回転糸切り	旋盤き→黒色処理
241	杯	12.8		1.4			横線ナデ 湯呑有り	旋盤き→黒色処理
<b>B区検出品</b>								
242	原志杯	14.3	7.0	3.7	1.3		横線ナデ 底部:回転糸切り	横線ナデ
243	原志杯	13.4	5.8	3.6	1.4		横線ナデ 底部:回転糸切り	横線ナデ
244	灰輪軸	12.6	6.4	3.9	3.4		横線ナデ	横線ナデ
<b>北堀</b>								
245	原志杯	12.0	6.2	4.1	1.2		横線ナデ 底部:回転糸切り	横線ナデ

### 3 石器

各時代の遺構が数多く重複する当遺跡のあり方から判断して、出土資料を直接遺構に関連させることには危険が伴う。ここに報告する資料には、縄文時代から弥生後期にいたるまでの各時代遺物が混在して含まれていることを前提としておきたい。また、敲石・砥石類には、さらに時代が下降するものが含まれている可能性がある。

#### 打製石鏃 (図61-1~46)

未成品と思われるものや細破片を含めて73点が確認されている。石材別には6割が黒曜石であり、チャート・頁岩類がそれに続く。形態別には無茎が有茎を大きく上回り、先端部を欠損しているものが目立つ。無茎石鏃の多くが縄文時代の遺物となる可能性が考慮される。

#### 磨製石鏃 (図62-47~73)

製品21点、未成品(刃部の形成や穿孔が未成のもの)22点、剥片(素材として選別されたもの)23点が確認されている。石材としては、板状に薄く剥離した頁岩や片岩類を利用している。出土遺構は各時代にまたがるが、製品等9点が出土したSB-50などの弥生後期前半段階に偏在する傾向を認めることは可能となろう。未成品(47~57)や素材として選別された剥片を伴う点や、先端がきわめて鋭利に研ぎ出された状態の製品(61~65)が認められる点から、製作途上と完成直後のものが大半を占めていると思われる。また、基部両端に抉りを施すもの(68~71)や有茎のもの(72)が含まれている点は注意される。

#### 磨製石包丁 (図63-89・90)

2点が確認されている。穿孔を有した背部の破片であり、石材には頁岩類が用いられている。

#### 石匙 (図62-74)

チャート製の完形品1点が確認されている。縄文時代の産として誤りない。

#### 石錐 (図62-75・76)

破片を含めて5点が確認されている。完形の2点の刃部には、使用に伴う擦痕が観察される。

#### 敲石 (図63-77~80)

敲打痕を残す棒状自然石(河原石)を敲石とするが、凹石状の丸石を含めて、17点が確認されている。石材としては安山岩類や砂岩類を利用し、棒状の両端を敲打面としている。側面に敲打痕を認める例もある。

#### 砥石類 (図63-81~88・91~94、図64-95~103)

硬く滑らかな頁岩類を用いたもの(39点)と砂岩類を用いたもの(112点)の2系統が確認されている。

頁岩系はさらに、線状の擦痕が顕著なもの(81~88)と光沢面が形成されているもの(98~101)に分類できる。前者は小形自然石の曲面をそのまま砥面として利用しているが、形状は多様である。また、サイコロ状になるほど使い込まれたもの(88)も存在する。ミガキ石とも呼ばれ、土器製作に係るヘラミガキ工具であったことが想定される一群である。しかしながら、部分的に光沢面が形成されるとともに敲打面を有する例(81・82)も存在することから、用途にはさらに幅を持たせるべきであると考え、ここでは砥石(研ぎ磨くための石)として一括する。後者には、小形自然石の平坦部を砥面として1条の樋を切り込んでいるもの(99)と、細長い方柱形の平面を砥面としているもの(100・101)があり、肉眼で観察する限りでは砥面は滑らかで光沢を有する。

砂岩系には、長さ5cmの方形板状のもの(98)を最小として小形品(91~96)、中形品(97)、大形品(102・103)が確認され、形状も多様である。小形品は持砥、中・大形品は置砥として位置づけられる。

この他、扁平片刃石斧・柱状片刃石斧・太型蛤刃石斧・石槌・打製石斧が出土している。(103頁へ続く)

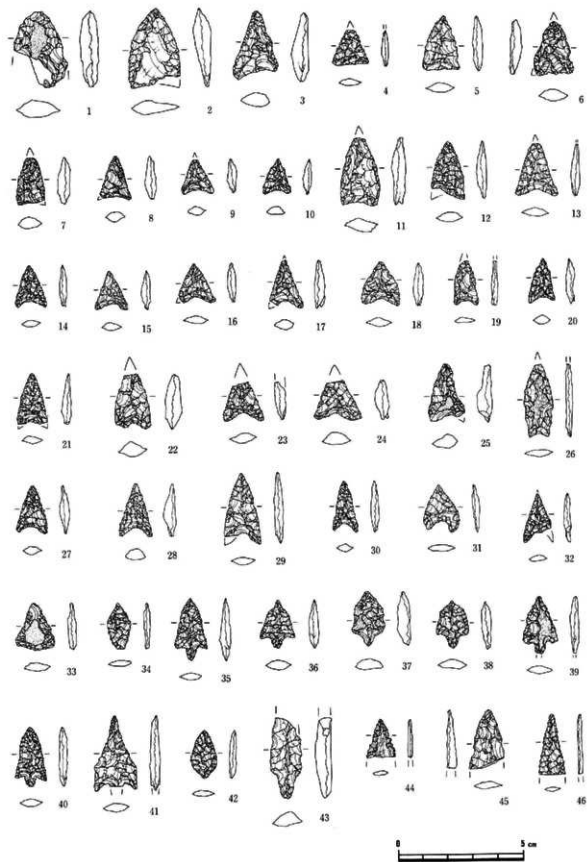


图61 石器（打製石鏃）実測図（2：3）

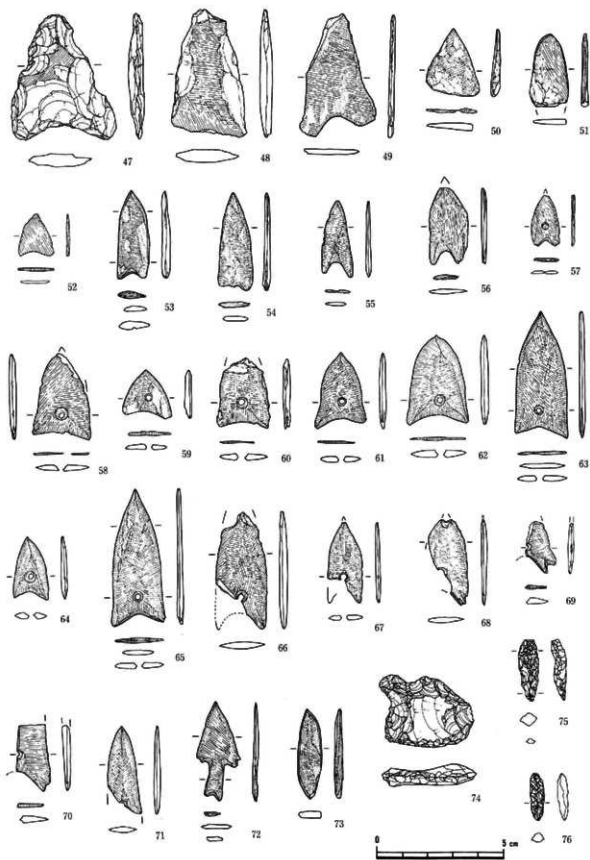


图62 石器（磨製石鏃・石匙・石鏃）実測図（2：3）



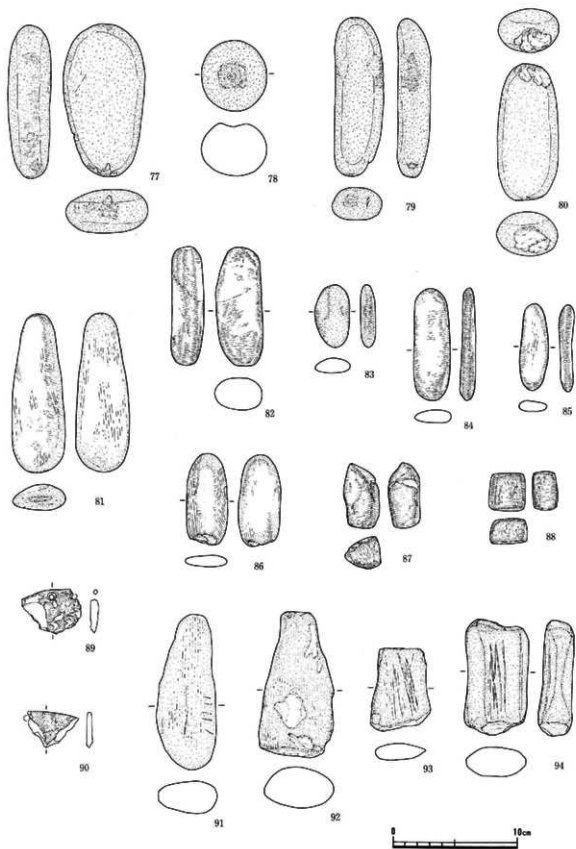


图63 石器(敲石·砸石類·石包丁)実測図(1:3)

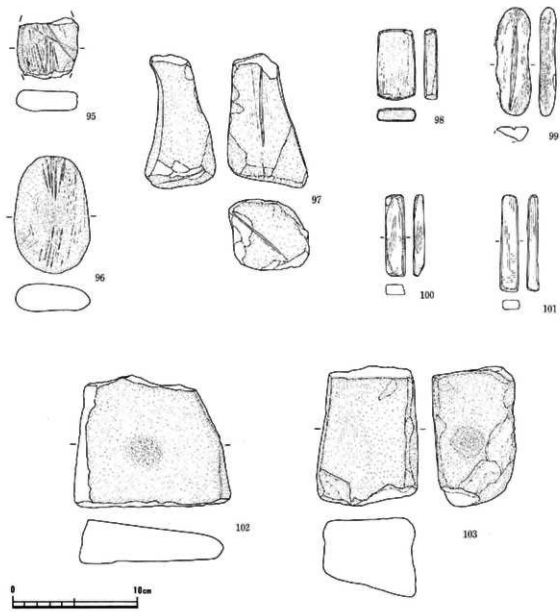
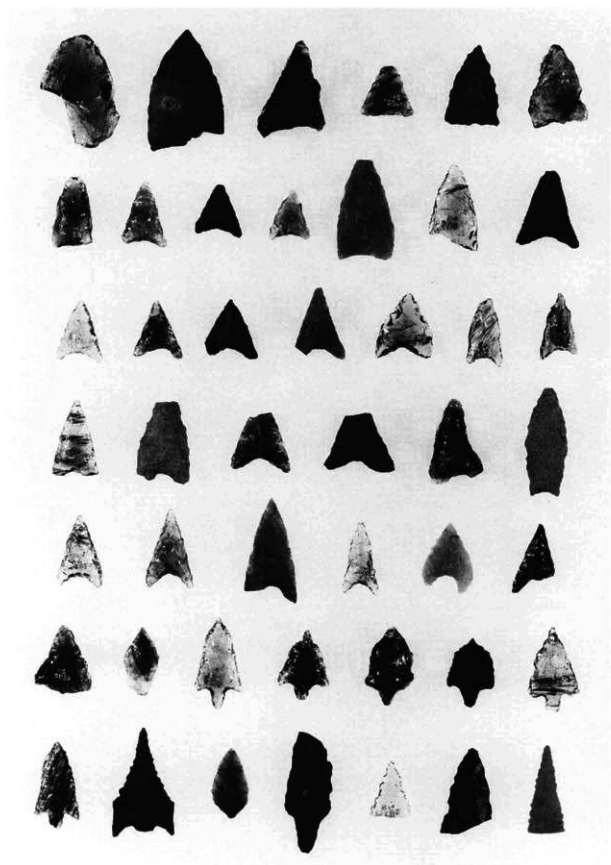


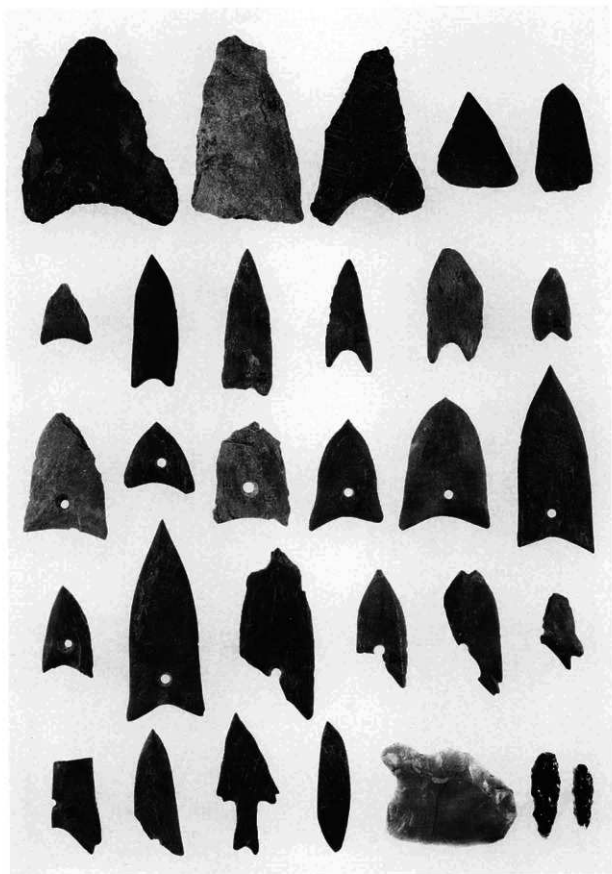
图64 石器(砾石類)実測図(1:3)

No.	器種	石材	出土遺構	No.	器種	石材	出土遺構	No.	器種	石材	出土遺構	No.	器種	石材	出土遺構	No.	器種	石材	出土遺構	
1	打製石鏟	黒曜石	S3-2	22	打製石鏟	燧石	S3-19	43	打製石鏟	安山岩	S3-35	84	磨製石鏟	瑤瑯岩	S3-52	85	砾石	砂岩	S3-11	
2	#	チャート	S3-14	23	#	黒曜石	S3-32	44	#	黒曜石	S3-2	85	#	結晶片岩	B区検出	86	#	硬砂岩	S3-41	
3	#	黒曜石	S3-41	24	#	頁岩	S3-7	45	#	チャート	S3-47	86	#	粘板岩	S3-9	87	#	瑤瑯岩	S3-15	
4	#	黒曜石	S3-47	25	#	黒曜石	S3-3	46	#	チャート	S3-30	87	#	瑤瑯岩	S3-52	88	#	硬砂岩	B区検出	
5	#	燧石	S3-53	26	#	燧石	B区検出	47	#	磨製石鏟	粘板岩	S3-6	88	#	瑤瑯岩	S3-59	89	石包丁	頁岩	S3-43
6	#	黒曜石	S3-35	27	#	黒曜石	S3-47	48	#	瑤瑯岩	S3-44	89	#	瑤瑯岩	B区検出	90	#	粘板岩	S3-19	
7	#	黒曜石	S3-2	28	#	黒曜石	S3-3	49	#	粘板岩	S3-32	90	#	結晶片岩	S3-50	91	砥石	砂岩	S3-30	
8	#	黒曜石	S3-43	29	#	チャート	B区検出	50	#	瑤瑯岩	S3-32	91	#	結晶片岩	S3-50	92	#	砂岩	S3-52	
9	#	頁岩	B区検出	30	#	黒曜石	B区検出	51	#	頁岩	S3-46	92	#	頁岩	S3-35	93	#	砂岩	S3-41	
10	#	黒曜石	S3-47	31	#	チャート	S3-9	52	#	瑤瑯岩	S3-35	93	#	頁岩	S3-41	94	#	砂岩	S3-38	
11	#	チャート	B区検出	32	#	黒曜石	S3-11	53	#	粘板岩	S3-41	94	砥石	チャート	S3-51	95	#	砂岩	S3-46	
12	#	黒曜石	S3-3	33	#	黒曜石	S3-50	54	#	瑤瑯岩	B区検出	95	砥石	黒曜石	S3-51	96	#	安山岩	S3-52	
13	#	頁岩	S3-9	34	#	黒曜石	S3-14	55	#	結晶片岩	S3-19	96	#	黒曜石	S3-55	97	#	砂岩	S3-18	
14	#	黒曜石	B区検出	35	#	黒曜石	S3-9	56	#	瑤瑯岩	S3-52	97	砥石	安山岩	S3-52	98	#	砂岩	S3-46	
15	#	黒曜石	S3-52	36	#	燧石	S3-11	57	#	瑤瑯岩	S3-4	98	#	砂岩	S3-9	99	#	粘板岩	S3-6	
16	#	粘板岩	S3-48	37	#	黒曜石	S3-41	58	#	瑤瑯岩	S3-15	99	#	硬砂岩	B区検出	100	#	燧石	S3-24	
17	#	チャート	S3-7	38	#	頁岩	S3-53	59	#	頁岩	S3-19	100	#	安山岩	S3-22	101	#	硬砂岩	S3-1	
18	#	黒曜石	S3-9	39	#	黒曜石	S3-3	60	#	結晶片岩	S3-32	101	砥石	硬砂岩	S3-32	102	#	砂岩	B区検出	
19	#	黒曜石	S3-52	40	#	瑤瑯岩	B区検出	61	#	結晶片岩	S3-12	102	#	頁岩	S3-30	103	#	砂岩	S3-50	
20	#	黒曜石	S3-44	41	#	頁岩	B区検出	62	#	燧石	S3-1	103	#	硬砂岩	S3-21		#	砂岩		
21	#	黒曜石	S3-41	42	#	チャート	S3-21	63	#	結晶片岩	S3-12	104	#	硬砂岩	S3-3		#	砂岩		

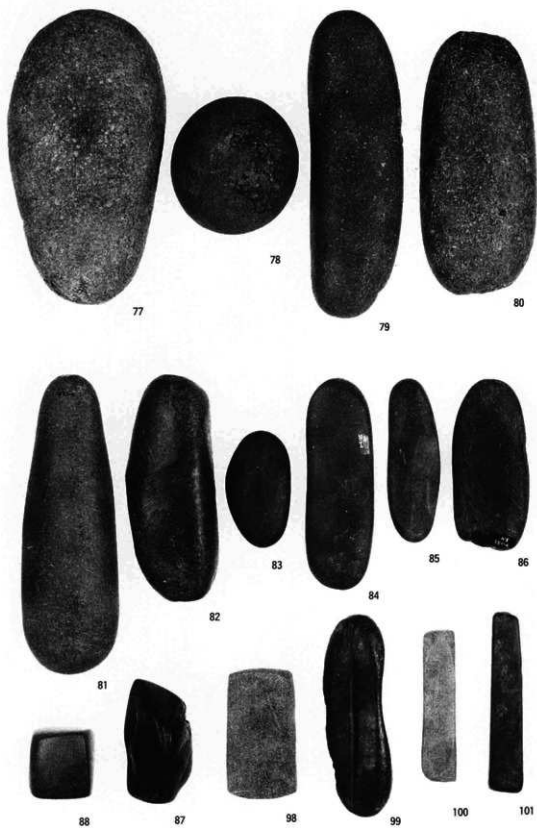
出土遺構等対照表(石材観察:多羅沢実恵子)



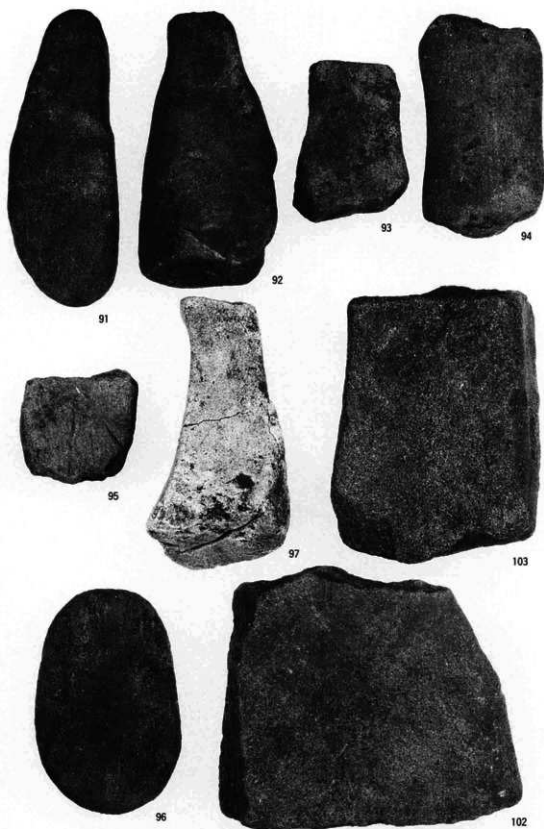
石器写真 打製石器 (約 1 : 1)



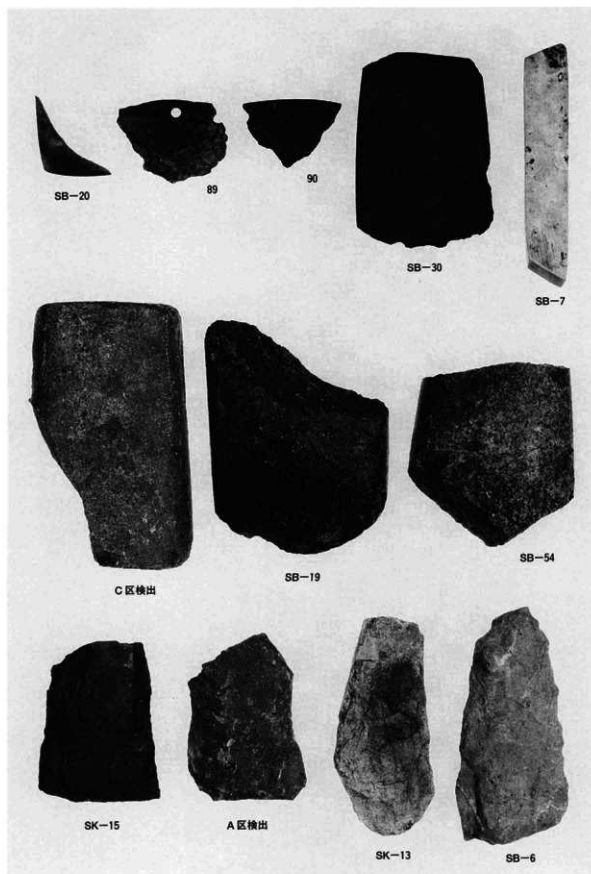
石器写真 磨製石鏃・石匙・石錐（約1：1）



石器写真 敲石・砥石類 (約 2 : 3)



石器写真 磁石類 (約 2 : 3)



石器写真 石包丁・扁平片刃・柱状片刃・大型蛤刃石斧・打製石斧（約2：3）

(石器写真説明：実測図が未掲載の石器)

**扁平片刃石斧**：未成品と刃部破片の2点が確認されている。未成品は、刃部幅5.5cm、長さ8cm、厚さ1cmを測る。表裏及び側面の研磨が途上で、刃部の形成には至っていない。

**柱状片刃石斧**：幅1.8cm、長さ9.5cm、刃先が幅0.9cmと狭小で、小形の盤状を呈する。

**大型蛤刃石斧・石槌**：石槌に転用したものを含めて大型蛤刃石斧は4点を確認しているが、うち1点は写真未掲載の小破片である。いずれも欠損品であり、刃部を遺存する個体の刃幅は7cmを測る。

**打製石斧**：打製石斧と思われる破片3点と、風化の著しい石斧形の石片1点を確認されている。いずれも打製石斧とするなら小形品に属す。なお、前者のうちの2点には使用に伴う磨耗が観察される。

## 4 玉類

管玉3点と小玉5点（うち2点は細破片、未掲載）が確認されている。

**管玉**：鉄石英質の細型製品（1）と緑色凝灰岩質の製品（2）と、鉄石英質の破損品（3）があり、穿孔はいずれも片側からと思われる。

**小玉**：ガラス製で、淡色のコバルトブルーの製品（4）と淡色のライトブルーの製品（5・6）がある。いずれにも気泡が観察され、遺存状態は良好ではない。

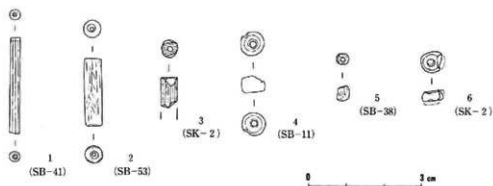
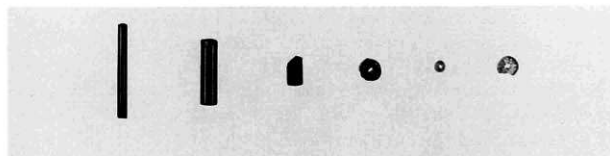


図65 玉類実測図（1：1）



玉類写真



## 5 青銅製品

### (1) 銅鏃

30号住居覆土上層・24号住居覆土上層・B地区中央部付近検出面よりそれぞれ1点ずつの計3点が出土している。このうち、1点は小型の鑿状工具に再加工している可能性があり、他にも再加工痕かとみられる擦痕が観察されるが、製作当初の種別である銅鏃として報告する。

**銅鏃1** (SB-30覆土上層出土 図66-1) 有茎三角形鏃である。刃部の一部を欠くがほぼ完形品である。鏃身部は両面に錆がみられ、茎部は方形を呈する。全長40.5mm、鏃身厚3.2mm、茎部厚1.8mmをそれぞれ測る。茎部は先端に向けて鑿状に細くなり、削痕が明瞭に観察される。鏃身部にも若干の削痕が認められるものの、茎部における削痕とは比較にならないほど明瞭で、茎先端部を鑿状に再加工した可能性が考えられる。ただし、刃はつけられていない。この茎部の改変に伴ってか、矢柄の装着痕も観察されない。

茎部に朱の付着が観察される。ただし、削痕中に入り込んだ微量の朱であり、朱は当品に塗布されたものではなく、近くに朱が存在して付着したものと考えられる。

**銅鏃2** (SB-24覆土上層出土 図66-2) 鏃身部が大きく欠損しており、当初形態は不明である。かろうじて残存している鏃身間部は左右形態が異なる。これはほぼ直角にみえる間部が鑄造後の研磨が不十分な結果で、本来の形態は鋭角な間形と捉えられ、銅鏃1と同様に有茎三角形鏃になる可能性が指摘できる。残存全長44mm、茎部長30mm、鏃身厚3.8mm、茎部厚3.7mmを測り、鏃身部・茎部ともに非常に厚い。鏃身部は大きく再加工されており、削痕がよく残る。刃欠損部も整形痕が認められ、大きく改変されていることが観察される。さらに鏃身部には湾曲が認められるが、これが改変によるものか、製作時からのものか定かではない。茎部も鏃身部同様に削痕が明瞭に観察され、本来の茎部形態から大きく改変されている。特に茎端部は両面から削り込まれて刃部をなし、小型の鑿状工具に転用されていると考えられる。

**銅鏃3** (B地区中央部付近検出面出土 図66-3) 刃部は残存せず、また、茎端部も欠損するなど、残存状況は極めて悪く、全長・鏃身幅・茎部長はもとより本来の形状も明らかにしえない。鏃身間部の形態が銅鏃1・2と異なることから小型の柳葉式銅鏃と想定しておきたい。鏃身部は極めて不明瞭ながら両面に錆がされ、両箇所と想定される。茎部に矢柄の装着痕等は観察されない。

### (2) 銅劍

41号住居覆土中より3片出土している。肉眼観察による銅素材ならびにスの入り方等はよく類似し、本来同一個体であった可能性が想起されるが、3片ともに再加工され、接合も認められないことから、それぞれ別個体として報告する。

**銅劍1** (図66-4) 帯状円環型銅劍の破片である。環帯幅9mm、厚さ2mmを測る。半環状を呈するが、復元される外径は約40mmと極めて小さく、銅劍としての本来の機能を失った再加工品と考えられる。外面にはスガ明瞭に観察される。後述する銅劍2・3のような附着物は観察されない。

**銅劍2** (図66-5) 幅7mm、厚さ2mmを測る帯状円環型銅劍の破片である。側面の片側は製作時以来の端部とみられるが、反対側は再加工が加えられており、幅の計測値は本来の幅よりも小さくなっている。中央部のやや短辺よりには円孔が一方所穿たれている。円孔は外面径2mm、内面径3mmと大きさに違いが認められ、外面円孔周囲には孔形に沿った整形面が観察される。外面から内面に穿孔がなされ、その後、整形が施されているものと考えられる。断面は若干の湾曲が認められるが緩やかで、板状に製された後、円孔を穿ち、垂飾として再生され

たものであろう。

内面および円孔内部には付着物が認められる。この付着物は後述する銅鋼3に厚く付着しており、内面のみに付着する等、銅鋼3の付着状況と大きく異なっている。

**銅鋼3** (図66-6) 帯状円環型銅鋼の小破片である。端部とみてよい部分が一カ所認められるが、残存状況が悪く、本来の形状復元は難しい。なお、掲載図には銅鋼1の側面幅を加えておいた。

湾曲は極めて緩やかであり、通常計測される銅鋼の径から大きくはずれる。小片であるうえ、付着物の存在から表面観察が難しいが、意図的に板状に彎された破片と考えられ、製作時の形態を留めない再加工作品である。

掲載実測図のトーン部は付着物を示し、外面のほぼ全面に不明品の固着が認められる。これは銅鋼2内面に観察されたものと同一である。

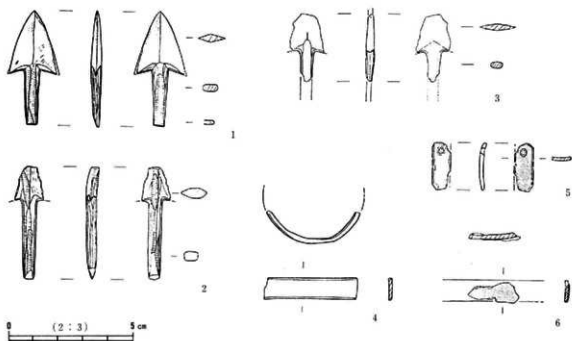
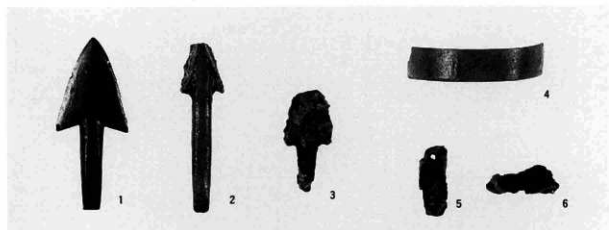


図66 青銅製品実測図 (2:3)



青銅製品写真 (約1:1)

## 6 土製品

土製品観察表

番号	器種	法量 (cm) (g)				遺存	形態・整形等	遺構
		口径	底径	器高				
1	土偶?			6.6		ママ	口が正面でニガ背面、両手を広げる、右手吸盤状突起、顔部位の表現なし、背に吸盤上突起1個と山形突起3個を負う、腹部に貫通孔、整形雑	SB-32
2	土鉢	3.2	2.3	7.4	71	ママ	貫通孔上下で口径に差、ナデ	SK-11
3	*	2.0	2.0	6.9	51	*	貫通孔直口、ナデ	SK-13
4	ミニチュア壺		2.1			*	外ハケナデ・ナデ、内ナデ	SB-9
5	* *		3.2			*	外ヘラミガキ・ハケナデ、内ナデ	SB-11
6	* 鉢	4.7	1.9	3.3		完形	口縁有段、内外ナデ、石英粒多	SB-14
7	* *	3.8	2.7	2.0		*	内外ナデ	SB-16
8	* 壺	4.6				1/6	外雑ヘラミガキ・内ナデ	SB-30
9	* 鉢	3.9	2.2	2.7		1/2	内外ナデ	*
10	*無頸壺	1.1	丸	1.7		1/3	外ヘラミガキ・赤彩、内挟り取り	*
11	*台付?		2.0			1/4	外ヘラミガキ・黒色、内ナデ	*
12	* 鉢	3.7	2.6	1.8		1/3	内外雑ヘラミガキ、石英粒多	SB-38
13	* 壺	5.4		1.7		1/6	内外ナデ	SB-45
14	?取手	1.4				ママ	ヘラナデ、赤彩	SB-46
15	ミニチュア壺		1.2			*	内外ナデ	SB-47
16	* 鉢?		2.6			*	外ヘラナデ・ナデ、内ナデ	*
17	* 壺	7.8				1/6	外ヘラ播平線文・波状文・ナデ、内ナデ	SB-51
18	* 鉢?		2.8			ママ	内外ナデ	SB-54
19	* 壺?					1/8	外ナデ、内ハケナデ	*
20	* 鉢	4.7	2.9	2.6		完形	内外ナデ、石英粒多	*
21	* 壺	0.9	1.1	1.4		*	ナデ、山形文	SK-15
22	*台付壺		3.9			ママ	内外ナデ、外変形山形文	SD-1
23	勾玉	1.2		2.9		完形	ナデ	検出面
24	紡錘車?					ママ	ヘラミガキ	SB-52
25	半円板	6.3			41	*	弥生壺体部、周囲一部研磨	検出面
26	円板	5.4			32	*	*	SB-36
27	半円板	5.8			24	*	*、周囲一部研磨	検出面
28	*	5.1			23	*	*	SB-52
29	*	4.8			15	*	*、弧縁全周研磨	検出面
30	半円板?	4.8			13	ママ	弥生鉢体部、内外赤色	SB-51
31	半円板	3.9			7	*	* 壺体部	*
32	円板	4.1			13	*	* 壺底部	SB-9
33	*	4.4			15	*	*	*
34	円板?	3.9			14	*	弥生鉢体部、内外赤色	SB-51
35	円板	2.6			4	*	* 壺体部、全周研磨	SB-21
36	*	2.5			4	*	* 鉢体部、内外赤色	SB-43

(注) 遺存の項の「ママ」は実測値と通りの残存を示す。

土鉢の法量中、口径=最大径・底径=下部径・器高=全長に読み替える。

円板類の口径は断面位置の長さを表す。

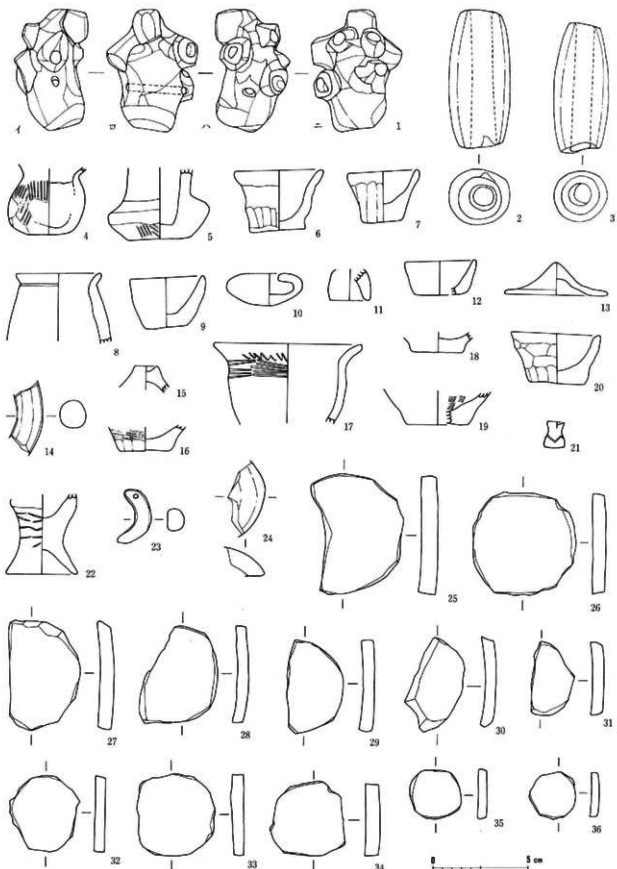
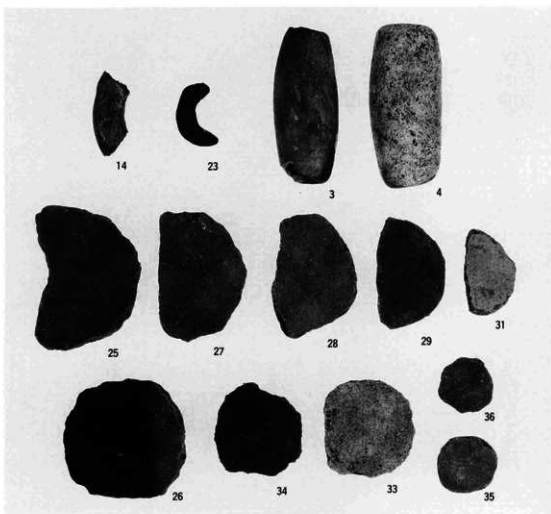


图67 土製品実測図 (1:2)



土製品写真 (約 2 : 3)

## 7 骨角製品・獣骨

### 骨角製品

出土した骨角製品は、2号住居址(2・5・6・15)・23号住居址(19~22)・24号住居址(14)・30号住居址(4・8~13)・7号土壌(7)であり、他(1・3・16~18)は検出面からの出土である。

1~7は角製品の素材になる鹿角で切断および製作過程のものとして推定される。13・18は角先端部の切断品であるが、18の先端には削痕があり、刺突具とも考えられる。1は角座を切断した後の製品原材を切り落とす過程にあるものと考えられる。原材となる上面は削痕を消すことにより丸みを帯び、下面を削りによって平坦にしている点からみて、14のような円錐形の製品を意識しているものと思われる。角幹部・枝部の残存先端には切断痕はみられない。2は角座の切断過程にあるものの、打割用と思われるV字状の溝が盾に長く2条刻み込まれている。また、実測図の裏側に縦方向に2帯の平滑化した面を作り出しており、これ自体が製品なのか未製品なのか不明である。3は角座の切断痕が認められず、角上部を切断しており、鹿角特有の粒隆突起を削り落として平滑化している。4・5・7は基部および先端部を切り落としているものの加工痕はみられない。6は頭蓋骨の内面と思われる凹面が残存する。

8は鹿角製の有角柄頭で、枝部頂部は欠損し器体基部も大きく欠損する。全体によく研磨されて整形されており、鹿角の自然面と思われる部分は残存しない。器体頂部は幅1.8cmほどの隆帯部を作出し、一面面にのみ円形の穿孔を施しているが、隆帯部のみでブリッジ状の加工は認められない。器体基部下端も削り込みによって幅1cmほどの隆帯部を作出している。基部の穿孔は2個のみ認められ、ともに目釘穴と考えられる。茎を挿入するソケットは器体部頂部下端にまでおよび、枝部との分岐部内側にまで切り込みがおよんでいる。器体部ならびに枝部に施文等は認められない。全長12.7cmをはかる。

9・10は角先端部を利用した栓状製品で、10の頭頂部には円錐形の挟り込みが認められる。9の先端は欠損しており全長は不明であるが、頭部の最大幅は1.9cmである。10は全長6.3cm・頭部最大幅2.0cmをはかる。

11・12・17は細長い紡錐形を呈する針または錐状製品である。14は紡錐車と推定される製品で、円形を呈し、断面が凸レンズ形態となる。中央の円孔から外縁に向けて十字状に線刻が施され、各線状に1個と左右に角の小円孔が配置されている。小円孔は貫通しない。直径5.0cm・最大厚0.9cmで、一部欠損しているが11gの重量である。

15は刻骨で、角の一面を平坦にし横方向に密な線刻を施している。呪術用あるいは楽器の一種と考えられているが、線刻面は平滑であり、一部に刻目が消えていることから、いずれにしても摩擦を伴う用途の角器と考えられる。16は弓管で、頭部外面に鉢巻き状の彫り込みがあり、頂部からは円錐状の挟り込みがある。

19から22はト骨である。19は右寛骨を利用したもので、臼状の関節部があり、実測図上部は切断されている。

ト骨は関節部の厚いところを避け薄い部分で行われており、焼火箸による黒色の灼痕を中心にして円形または楕円形の被熱痕を表裏両面に残す。20~22は骨の部位は不明であるが、22の上端は臼状の関節部になる。21は厚い部分の両面にト占痕があるのに対し、20・22は薄い部位の片面のみに施される。

### 獣骨

最も出土量が多かった30号住居址出土資料の中から、遺存状態が良好で種類・部位が特定できるものを抽出し、写真を掲載した。イノシシの環椎・上顎骨・下顎骨・肩甲骨・腕骨・距骨、ニホンジカの上腕骨・腕骨・距骨・踵骨・指趾骨と、イノシシ・ニホンジカの全身にわたる部位を確認することができる。

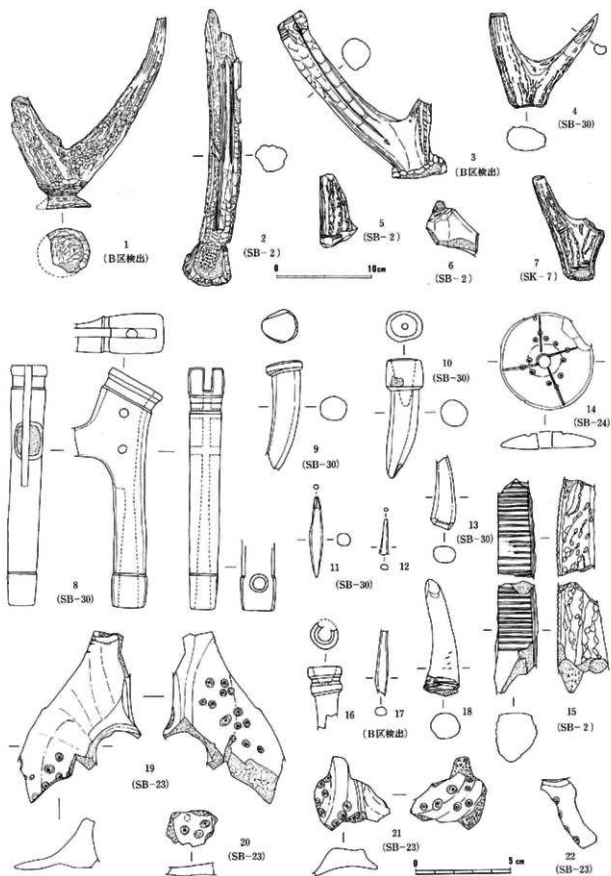
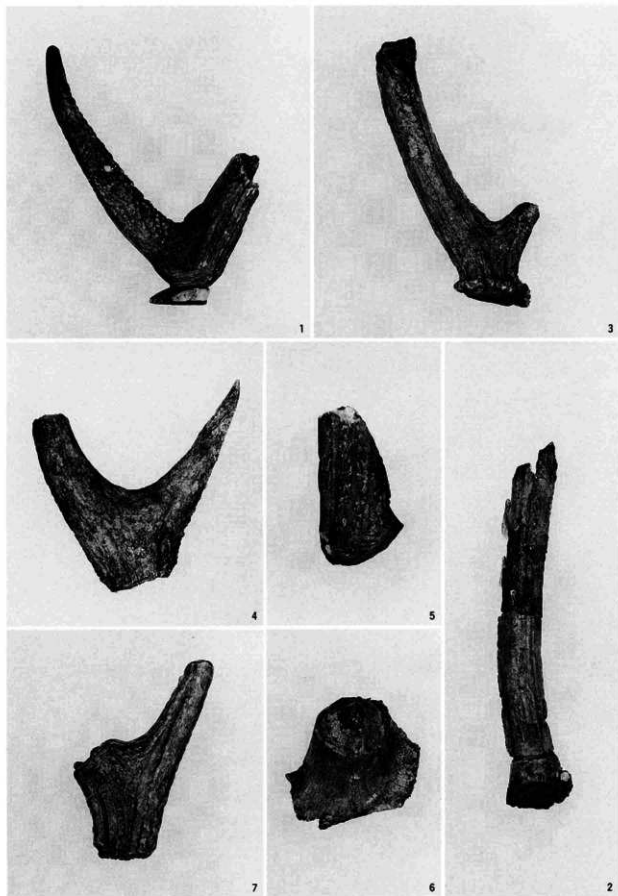
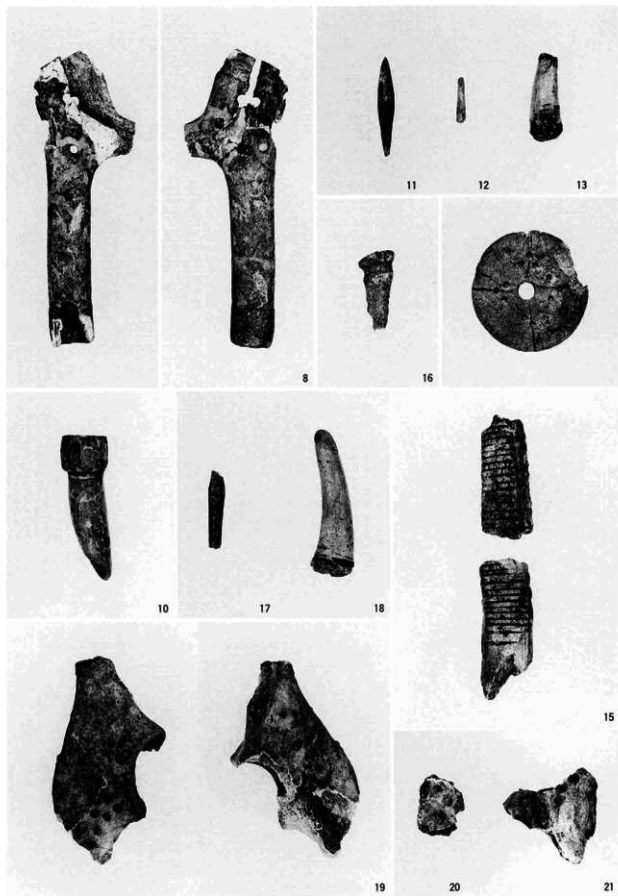


图68 骨角制品实例图 (鹿角 1:4、制品 1:2)

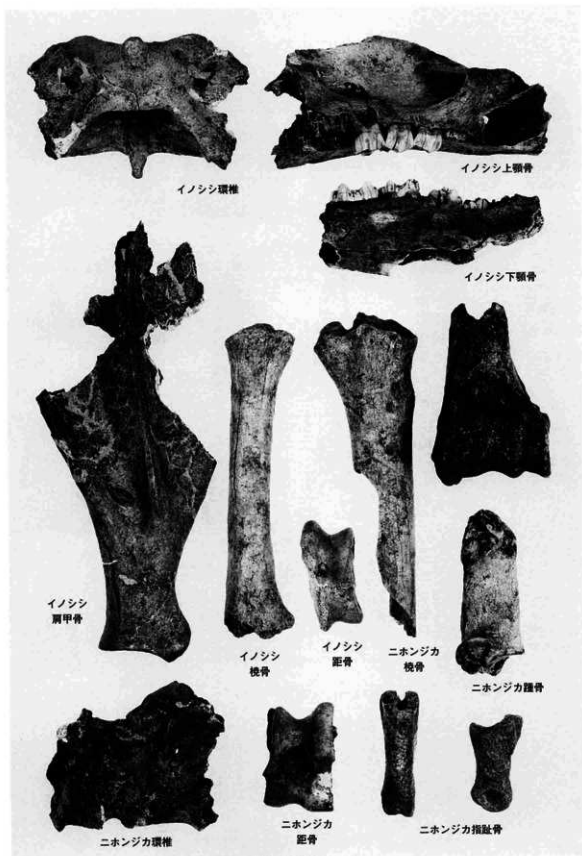


骨角製品写真①





骨角製品写真②



獣骨写真(約2:3)

## 報告書抄録

ふりがな	いしかわじょうりいせき(8)							
書名	石川条里遺跡(8)							
副書名	宮之前地点							
シリーズ名	長野市の埋蔵文化財							
シリーズ番号	第66集							
編著者名	青木和明、風間栄一、千野浩、矢口忠良							
編集機関	長野市教育委員会 長野市埋蔵文化財センター							
所在地	〒381-22 長野県長野市小島田町1414番地 TEL.026-284-0004							
発行年月日	1994年(平成6年)3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
いしかわじょうり 石川条里遺跡 みやのまえ 宮之前地点	長野県長野市 篠ノ井塩崎 宮之前4256他	20201	E-①	36° 33′ 20″	138° 6′ 25″	19910614 ～ 19911108	1,100m <sup>2</sup>	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
石川条里遺跡 宮之前地点	水田跡	平安	水田畦畔、水路		土師器、須恵器、灰輪陶器			
	散布地	縄文			縄文土器、石器			
	集落跡	弥生	竪穴住居	50	弥生土器、石器、 青銅製品玉類、土製品			
			溝	2	骨角製品、獣骨			
			土坑	3				
	古墳	平安	竪穴住居	7	土師器、須恵器、灰輪陶器			
溝			4	鉄滓、羽口、土鍾				
土坑			5					
古墳	古墳	墳丘盛土及び堀の痕跡						
城館跡	中世	堀		陶磁器、土器				

長野市の埋蔵文化財第66集

## 石川条里遺跡

— 宮之前地点 —

平成6年3月25日 印刷

平成6年3月30日 発行

編集 長野市教育委員会

発行 長野市埋蔵文化財センター

印刷 信毎書籍印刷株式会社